

2018年6月15日

## 今回のおすすめメニュー

NO  
IMAGE

『トンネルの森 1945』  
角野栄子 著  
角川書店  
所蔵館：中央館

### ちょっとあ・じ・み

西田イコは、5歳の時にお母さんをなくして、祖母と東京で暮らしていました。太平洋戦争が始まり、お父さんも戦争へ行き、イコは、お父さんの再婚相手と幼い弟と一緒に田舎に疎開することになります。あたらしい家は、木がおいしげり、暗い森のそばでした。その森には、脱走兵が逃げ込んだといううわさがあり…

『魔女の宅急便』など多くの作品で知られる、著者の角野栄子さんは、1945年は10歳だったそうです。

「10歳の少女の目を通して見た、経験した、感じた戦争」を書いてみようこの本を書かれたそうです。

主人公のイコは新しいお母さんにもまだ馴染めず、その上、疎開先の新しい学校、新しい家など、慣れない環境で過ごします。戦争がだんだん激しくなり、食べ物もなくなる。離れて暮らす家族が無事なのか、知る手段もない…。10歳の子が経験したこと、あなたはどう感じますか。